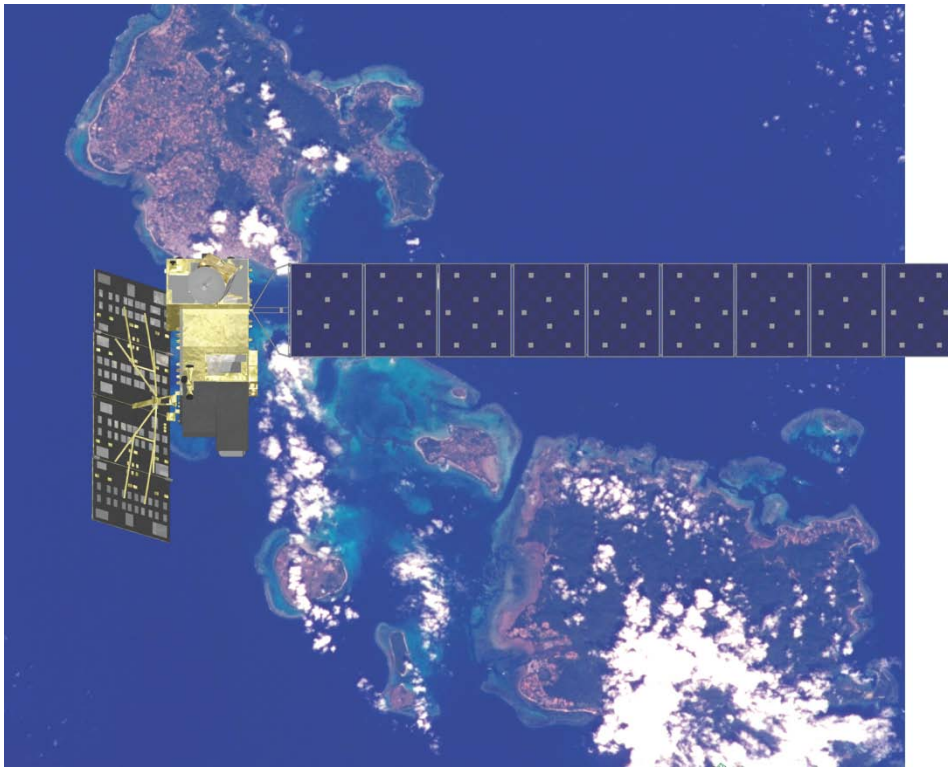
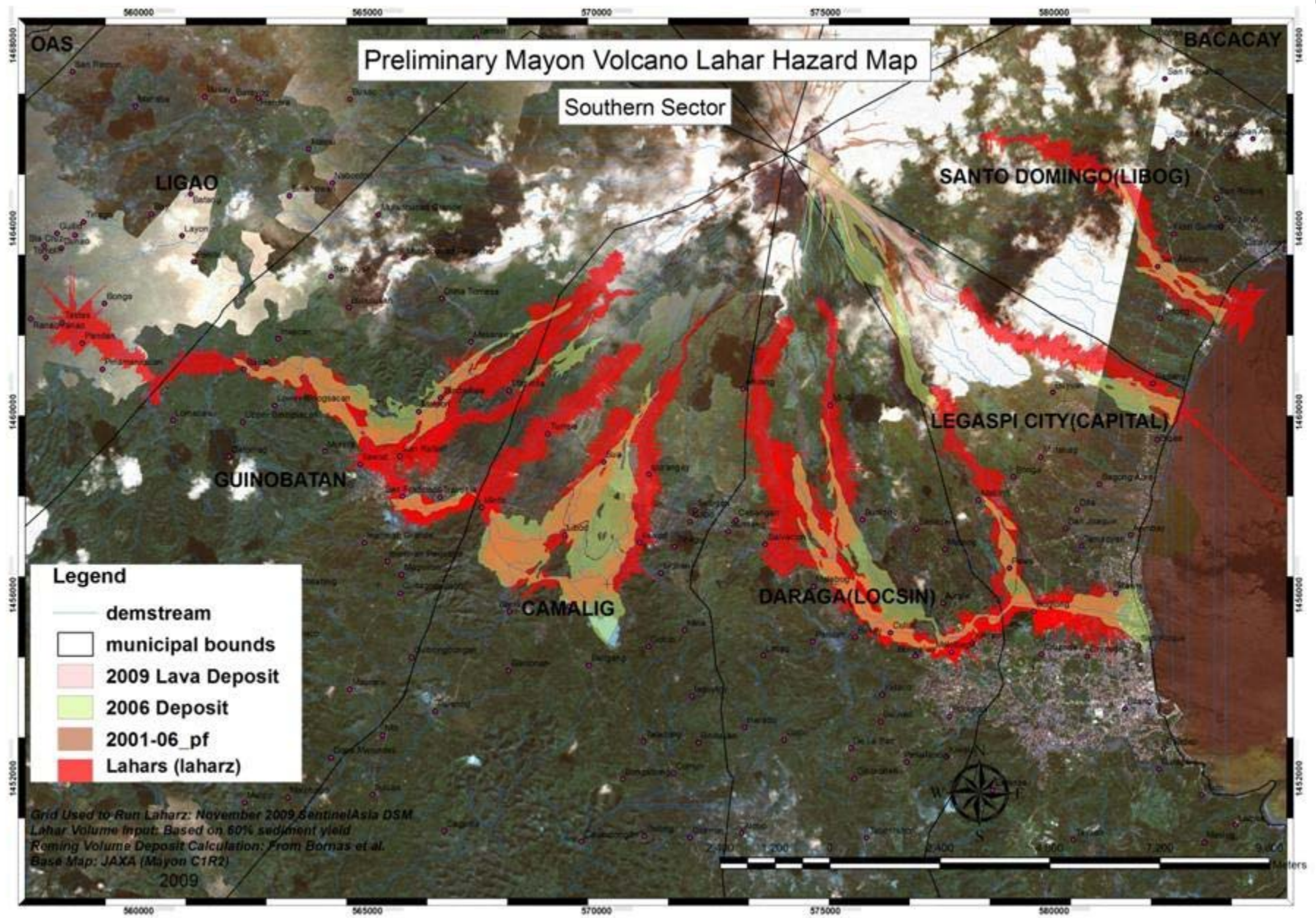


陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)の 後期利用段階の利用状況について



平成22年2月17日
宇宙航空研究開発機構
執行役 道浦 俊夫

分野	目的	利用状況
公共の安全の確保	国内及びアジア地域等の災害時の情報把握	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急観測件数は、国内11件、海外45件 ・センチネルアジア関係は、フィリピン・マヨン山等 12件 (別紙1参照) ・国際災害チャータは、ハイチ地震観測等 26件 (別紙2参照)
	地殻変動の予測監視	地震調査研究推進本部は、パンシャーンプンカラー立体視画像等より活断層の位置情報を把握するためALOSデータ利用を試行
国土保全・管理	国土情報の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・国土地理院は、国内の地図更新に使用、電子国土ポータルにて公開するとともに南極地形図の修正を実施 ・海上保安庁は、冬季オホーツク海の家氷観測を12月16日より開始(週2～4回提供) ・環境省は、東アジア、ミクロネシア、メラネシア(一部を除く)の最新サンゴ礁の分布図を作成・整備 ・環境省は、自然環境保全基礎調査として、未整備地域の植生図を作成 ・環境省は、衛星画像を活用した産業廃棄物の不法投棄等の未然防止・拡大防止 対策のモデル事業を10道府県と4市で実施し、効果を検証。
食料供給の円滑化	穀物等の生育状況や品質等の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・農水省は、科学的かつ効率的な水稲作付面積求積手法の開発・検証のため8市町村で実施 ・農業共済組合連合会等は、水稲共済における衛星画像を活用した損害評価方法の確立のためALOSデータを利用
資源エネルギー供給の円滑化	陸域及び海底の石油・鉱物の調査	経済産業省は、石油天然ガス等地下資源の探鉱・開発・生産 の諸活動に資する有用情報(地形・地質、立地状況、海底油田 賦存の指標となるオイルスリック、EOR等地中操作に伴う地表変形、等)のPALSARデータから抽出する技術の高度化の研究、及び前記諸活動のための基盤データの整備・蓄積を実施
地球規模の環境問題解決	温室効果ガスの吸収源となる森林の変化監視	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル国は、アマゾンの違法森林伐採等の摘発のため、ALOSデータの即時利用を行うとともに、森林変化抽出システムを開発、森林伐採が大幅に減少 ・インドネシア等東南アジアの森林減少に関し、50m分解能のオルソモザイクを完成、年2回の頻度で更新、森林変化を観測
その他	海洋監視手法の研究開発	AIS(自動船舶識別装置)及び航空機SARとALOSとの同時観測を行い、船舶監視の可能性の実験を実施



(別紙2:ハイチ地震の干渉画像と断層モデル)

— 断層 : NASAのWEBページ (<http://earthobservatory.nasa.gov/IOTD>) を参考にトレース

推定された断層面



断層面上端

